

果樹カメムシ(チャバネアオカメムシ)越冬量調査

1 目的

果樹を加害するカメムシ類は、越冬数と5~7月の予察灯の誘殺数の相関が高いことから、果樹園での5~7月の発生量を予測するため、カメムシ類の中で、最も発生量の多いチャバネアオカメムシの越冬調査を行う。

2 調査方法

2月中旬頃に、東予15か所、中予14か所、南予25か所の計54か所から、それぞれ1地点2か所(各1㎡)の落ち葉を採取し、越冬量虫数を調査した。

3 結果

(1) 全県的な越冬虫数は、1.26頭/2㎡(平年0.96頭/2㎡)と平年並であったが、東予地域では2.13頭/2㎡(平年0.49頭/2㎡)と多、中予地域では1.50頭/2㎡(平年1.13頭/2㎡)とやや多であった(表1、図1)。

(2) 越冬確認地点率は、37.0%であり、平年並であった(表1-越冬確認地点率)。

(3) 以上の結果から、5~7月の発生量は平年並と予測されるが、地域によって差があるものと思われる。

表1 愛媛県内の果樹カメムシ(チャバネアオカメムシ)の越冬量調査

	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	平年	10年間の順位	発生程度
東予	0	0.20	0.90	0.50	0.60	0.20	1.00	0	1.50	0	2.13	0.49	1	多
中予	0.50	1.40	2.30	0.40	4.40	0.40	0.70	0.20	1.00	0	1.50	1.13	3	やや多
南予	0.05	0.25	1.75	1.05	0.35	0.15	1.00	0	6.50	0	0.60	1.11	5	並
全県	0.15	0.53	1.68	0.75	1.43	0.23	0.93	0.05	3.88	0	1.26	0.96	4	並
調査園地数	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	54	40	-	-
越冬確認地点率	12.5	22.5	67.5	32.5	35.0	17.5	42.5	5.0	67.5	0	37.0	30.3	4	並

※平年値は過去10年の平均値

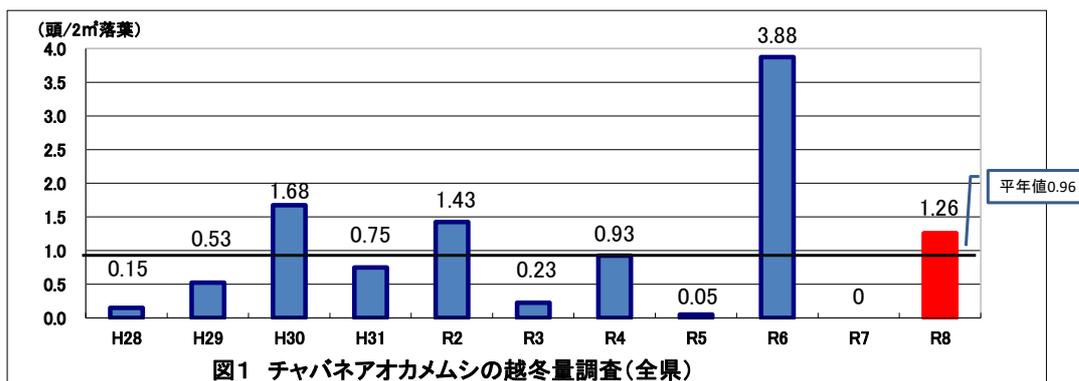


写真1:越冬場所である落葉を採集



写真2:25℃の室内で飼育



写真3:チャバネアオカメムシ越冬成虫

<参考>

- ・果樹を加害する主要3種では、チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシの順に多い。
- ・いずれも成虫で越冬し、4月頃より活動を始め7月末頃まで生存し、モモ、ナシ等の果樹を加害する。その後8月頃から新成虫が発生する。
- ・チャバネアオカメムシは、クヌギ等の落葉下で越冬し、越冬中は暗褐色をしている。
- ・越冬量が多い年は、5月から7月の発生が多くなる可能性が高いと考えられている。
- ・4月からは予察灯、集合フェロモントラップによる誘殺状況のデータをHPに掲載予定。